

NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 主催

# 第16回 白金カンファレンス

令和6年 **11**月**20**日(水) **18:00~19:30** (開場 **17:30**)

**東京グランドホテル 3階 桜の間**

(東京都港区芝 2-5-2 **都営三田線 芝公園駅 A1 出口 徒歩2分**)

入場無料 定員 120名 (先着順受付です)

対象者：医師／医療関係者／**一般市民**

参加申込：当NPO法人ホームページ <https://www.gastro-health-now.org/> より、  
第16回白金カンファレンスの参加申込用紙をダウンロードした場合には、この告知チラシ裏面の  
①~③を必ずすべてご記入の上、事前に**FAX(03-3448-1078)**でのお申込みとなります。

**プログラム** 主催者挨拶 三木一正 (NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構)

**特別講演 (18:10~19:00)**

## 内視鏡低侵襲治療の現状—内視鏡でどこまでできるの?—



講師 **矢作直久** 先生 慶応義塾大学医学部 教授  
腫瘍センター 低侵襲療法研究開発部門長

1987年	新潟大学医学部卒業	2001年	東京大学大学院医学研究科消化器内科助手
1987年	東京逓信病院内科医員	2004年	東京大学大学院医学研究科消化器内科特任講師
1989年	東京逓信病院消化器内科医員	2005年	虎の門病院 消化器内科部長 (内視鏡部長兼任)
1990年	東京大学第一内科医員	2010年	慶応義塾大学医学部 教授
1997年	東京大学第一内科助手		腫瘍センター 低侵襲療法研究開発部門長 現在に至る
1997年	東京大学保健センター非常勤講師 併任	2017年	国立情報学研究所 客員教授 併任

学会活動 日本消化器病学会 監事、日本消化器内視鏡学会 第108回総会 会長、等

客員教授 University of Chicago, Chinese University of Hong Kong, Paracelsus Medical University Salzburg, University of Augsburg, Karolinska University, Mayo Clinic, University of Pennsylvania, Johns Hopkins University, Stanford University 他、多数

特許出願 2001年 P2001-333745, P2001-341708, P2001-391395, 2002年 P2002-023301 (内視鏡の構造に関するもの)、2003年 US10/411840 (内視鏡の処置具に関するもの) 他

**講演要旨** 消化管腫瘍に対する内視鏡治療は、以前は、スネアワイアを使用する治療が主流であり、切除できる病変の大きさや部位に制限があったため、あまり悪性度が低い病変でも、胃全摘出や人工肛門を伴う様な大きな手術が容認されてきました。その状況を打開するために、内視鏡の粘膜下層剥離術 (ESD) が開発され、現在では様々な病変が内視鏡で切除できるようになりました。また、胃粘膜下腫瘍に対する全層切除術や、食道アカラシアに対する内視鏡的筋層切開術 (POEM) 等も行われる様になり、内視鏡低侵襲治療は大きく発展しています。